



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

開催決定!

オンライン チャリティーコンポジウム

(コンサート + シンポジウム)

コロナ禍により、ホールでのチャリティコンサートの開催は困難なため、オンラインで、コンポジウム(コンサート+シンポジウム)を行うことになりました。内容は下記の通りとなっております。皆さまのご参加をお待ちしております。

記

◆日時:2021年11月13日(土)13:30~16:00

◆開催方法:ZOOMによるオンライン開催

参加費の入金確認後、Zoomの招待状を送らせていただきます。

◆内容

- ・ミニコンサート: ego apartment(エゴアパートメント) 1998年生まれの3人組ユニット
メンバー Laptop/Bass:Dyna(ダイナ)、
Guitar/Vocal:Peggy Doll(ペギードール)、
Guitar/Vocal:Zen(ゼン)。
- ・基調報告「外国にルーツを持つ子どもたちにとって今必要な日本語教育」
清田 淳子(立命館大学文学部 言語コミュニケーション学域教授)
- ・ミニコンサート:奨学生による演奏と話
- ・シンポジウム「外国にルーツを持つ若者からみた日本の学校の課題」
コーディネーター 榎井 縁
(大阪大学大学院人間科学研究科特任教授)
登壇者 外国ルーツの大学生など若者2名

◆参加費:1000円

◆申込方法:<https://forms.gle/ibBsTdeejZzEU8NA> か
QRコードにアクセスしてお申し込みください。

◆お問合せ先:事務局まで

※本事業は六甲アイランド基金の助成を受けています。



コンポジウム QR コード

奨学生からのメッセージ

〇さん(14 期生)

『高校生活の楽しみ』

いよいよ、死にそうなほど暑い七月になりました。始業式から三ヶ月を経過して僕の高校一年生の一学期はやっと終わりました。とても充実した学校生活を過ごせたと思います!この三ヶ月間はたくさんの思い出があります。

まずは学習面についてです。高校に入って勉強のレベルは一段上がって、勉強の課題の多さに苦勞し、環境の変化になかなか慣れず、とてもしんどい思いをしました。特に文系の現社と現代文、ともに 50 点ぐらいのレベルでした。それが原因で理系を選びました。でも文系も諦めたくないです。授業中にしっかり取り組んで、わからないところを早めに先生に聞くようにしました。その結果、期末の文系の科目は中間テストより約 50 点上がりました!全体順位も 60 位上がりました。それを続けて、高次の文理選択に向けて頑張りたいです。

次は部活についてです。僕は中学校から吹奏楽部をやり続けて今年が 4 年目です。吹奏楽部の部員はあんまり多くないのですが、毎日にぎやかに練習をしています。そして六月の学校記念祭に出て、いろいろな曲を演奏して、とても楽しかったです。もうすぐ開催される西阪神コンクールに出て金賞を取るために、最近はおちゃくちゃ必死に練習しています。大変ですが、楽しいです!

もう一カ月間の夏休みに入りました。この期間に友達と一緒にオープンスクールに参加する予定にしています。もっと自分の将来や夢について、よく考えようと思います。

また、クラスメート、学年の友達や先輩たちと仲良く過ごし、良い高校生活を送りたいです!

Yさん(14 期生)

『辛酸』

皆さんは<熱い>というワードにどういうイメージをお持ちですか?夏の気温、加熱した食べ物、砂漠地帯の暑い気候?皆さんにそれぞれ異なる答えがあると思いますが、私にとって<熱い>とは松岡修造さんなのです。松岡修造さんはスポーツ解説者、元男子プロテニス選手で、現日本テニス協会理事強化本部副部長です。松岡さんには色々な肩書きがありますが、私が彼の事を好きになった理由の一つは、彼の何事にも本気で取り組むその熱い心に惹かれたからです。彼との出会いはある Youtube の動画で、自国の選手が一生懸命に競技している中で、松岡さんも選手を必死になって応援する姿に私は感動しました。「自国の選手とはいえここまで本気で応援することはないだろう?」「ちょっと引いたわあ」と思う人もいるかもしれませんが、こんな熱い応援をみてそんなこと思う人は、私は嫌だと思います。彼のその選手に対する思い、応援している姿は試合を見ていない人にも伝わるぐらい熱く、それ故に私は彼のことが好きです。

私が彼を好きになるもう一つの理由としては、実は昔、私が日本に来て間もない頃、私は突然両親に日本の小学校に行かされました。日本語は基本的なひらがなしかわからなくて、学校でも友達はいませんでした。それでも日本語を話そうと頑張って、周りの皆の真似をして少しずつでも日本語を学ぼうと毎日頑張っていました。突然ある同級生 A くん「死ね」と言われました。最初は「どう言う意味だろう?」と思い、意味を聞いたら、中国語の謝辞《ありがとう》と同じ意味ですよ、と言われた私は何の違和感もなく、「日本語を教えてください」と感謝しました。そして私はすぐに他の人にもその言葉を使いました。それを聞いた同級生 B くんはすぐに泣き出して私はとても慌てました。「え、なんで泣いたの?」と言った途端に私は気づいてしまった

のです。同級生 A くんが私に教えた<死ね>は<ありがとう>の意味ではなく、悪い意味だということに。そのあと私は先生に叱られました。「私は悪くない、同級生 A くんがこれはありがとうの意味と言ったから」と説明しましたが、先生に「言い訳をするな」とさらに罵られました。その時私は気づいてしまいました。日本人の外国人に対する冷淡な態度、そして少数派を圧迫し虐めることを当たり前にしてしまう日本人の風潮、そしてそれらを無視するこの腐った社会に私という余所者は何も出来ない無力感。一番残酷なことは、この出来事は私の小中学生生活においてまだマシな事であった事です。更に酷いことはまだまだありますが、それはもう思い返そうとするだけで苦痛を感じる事です。今の私が一番良かったと思うことは、私が一番苦しい時に松岡修造さんに出会ったことです。彼がいたから私は耐えられたと言っても過言ではありません。彼の励ましがあったから、今の私は自分の行く道を迷わずに自信満々に歩いて行けます。

Mさん(14期生)

『高校生活』

私の高校生活について書こうと思います。高校に入学してから今までの生活とは変わったことや驚いたこと、頑張ろうと思ったことなど色々ありました。

まず、中学の頃は徒歩で学校へ行っていたのが電車通学になり、睡眠時間が短くなりました。更に、部活に入ったりテスト勉強が忙しかったり寝る時間が四、五時間になり改めて高校生活の大変さを感じました。次に、勉強です。中学では私は数学や理科が特に苦手でした。高校の授業はとてもスピードが速くて、自分の苦手教科の授業についていくのがすごく大変です。しかし、自分の苦手を克服したいと思いテスト勉強などを頑張りました。すると数学、生物、化学のテスト全てで八十点を超えることができ、生物ではクラスで二番目に高い点数ですごくうれしかったです。この点数に喜ぶだけでなく、油断せずに三年間いい点数をとり続けたいと思いました。また、英語の勉強も頑張りました。私の学校は高校三年で英検二級をもっていないといけなないので、私は今回、英検の準二級を受けました。正直、あまり自信はありませんでした。しかし、自分が思っているより高い得点で受かっていました。私は大学で留学したいと思っているので、もっと英語を勉強して高二の前半までに英検二級をとることを目標に頑張りたいです。最後に、部活動です。私は高校ではずっと入りたかった軽音楽部に入部しました。私はギターを担当しています。ギターは中学の音楽の授業でしか演奏したことがなくて、初心者だったので上手くなれるか不安でした。入部して一ヶ月くらい経ってバンドを組んで自分の演奏する曲が決まり、たくさん練習しました。初めてバンドのメンバーと合わせたときは、全然合わなくて自分たちが部内で一番できていませんでした。しかし、今では、ぴったり合うようになってすごく上達しました。もっとギターを上手くなりたいのでこれからも手を抜かずに頑張りたいです。

このように高校生活で達成したい目標がたくさんできました。これからも毎日充実した高校生活を送りたいです。

Oさん(13期生)

『SDGsについて』

最近よく耳にする言葉に SDGs というものがある。SDGs とは日本語で「持続可能な開発目標」と言う意味だが、これまで私は SDGs に対して「なんとなく良いもの?」という程度の認識しか持っていなかった。そこで私は SDGs について徹底的に調べてみた。しかし、そのうちに、私は恐ろしい事実と直面して

しまった。

まず、SDGs は 2005 年国連サミットで採択されたもので国連加盟国 193 カ国が 2015 年から 2030 年までに掲げた国際目標であり、そこでは主に世界から貧困や飢餓をなくすことや気候変動対策を進めるなどの 17 個の目標設定がされていると知る。そしてその前身となる MDGs というものがあるのだが、SDGs と MDGs の違いを一言で言うと、MDGs は「発展途上国が直面している社会問題を先進国が解決すること」、一方 SDGs では、途上国、先進国にかかわらず全人類が共通して取り組むべき課題がまとめられている。この段階の知識では「やはり SDGs は良いものなのでは？」と思ってしまうのだが、更に調べると、「SDGs ウォッシュ」という言葉にぶち当たる。SDGs の理念を掲げる企業やビジネスの中には、SDGs に取り組んでいると見せかけて、実は途上国の人々を苦しめている、等といった実態が伴っていないものも存在する。このようなビジネスのことを揶揄する言葉として「SDGs ウォッシュ」という言葉が使われているのだが、ここで私を恐ろしい事実を知ることとなる。MDGs では主体中心が国連や政府、NGO だったのに対して、SDGs では、主体が民間企業やビジネスマンにフォーカスされており、特に企業が SDGs を通じて社会問題を解決していくことが期待されているのだが、現実では、SDGs を悪用する企業も少なくはない。

例えば衣服を作る過程で多くの二酸化炭素を排出しているにもかかわらず「リサイクル素材で作られている」という良い面だけを PR するファッションブランド。または、「自社の製品は環境に配慮している」と強く PRしながら東南アジアの自社工場で雇っている現地の従業員は安い賃金で働かせていると言う事例があり、これらは「見せかけの SDGs」と呼ばれている。もっとひどい事例として挙げられるのは、ある企業のトップの人たちが、自分たちのビジネスが途上国の人権侵害や環境破壊につながっていると知りながら、汚い部分を隠してエコや SDGs に取り組む姿勢をアピールして利益を追求していると言う事実。つまり、企業がエコや SDGs を PR すると企業のイメージアップにもつながり宣伝にもなるので、SDGs ウォッシュ(見せかけの SDGs)に踏み込んでいくと言う場合もあるのだ。

先進国における豊かな生活が途上国における犠牲の上に成り立っている、という事実を「良し」とするのか、また「良くないから何をすべきか」を考えるかは、これからの時代を生きる私たちの世代への期待でもある。マスメディアや広告業界が作り出す上辺だけの正義に騙されないために私が常に意識している事は、「知る事」と「自分の頭で考える」と言う2点だ。堅実な知識を身に付ける事と思考力を鍛える事は、生きていく上で最も大切なことだと私は思っている。そして現実の知識を得るためには必ず、一次情報にたどり着くまで、調べ尽くさなくてはいけない。今回、私は、SDGs を調べるうちに「人新生の資本論」という本に出会ったのだが、資本主義経済の本質を見抜いている本だと感じた。「SDGs は大衆のアヘンである。」と言う言葉から本章が始まるのが衝撃的だが、これからの社会のあるべき本質を考える上では、決して大袈裟な表現ではないと思う。

SDGs の理念が正しく普及されているとは限らない状況の中、今後は、私自身の消費者としての選択が、どんな影響を社会に及ぼすのかを考え行動したい。

Dさん(13期生)

『自分が好きで応援したい人について』

私が好きで応援したい人は My Hair is Bad (マイヘア)というバンドグループです。私が応援したいと思った理由は Youtube のオススめで流れてきて聞き込むうちに、気づいたら元気をもらってすごく勇

気づけられたからです。マイヘアはロックバンドの中でも有名でファンも多く、みんなに愛されるバンドだと思います。特に椎木さんへのまなざしは特別なものを感じます。なぜこんなに愛されるのか。私はその理由が椎木さんのライブMCや歌詞などに見られる、徹底した自己開示にあると思っています。椎木さんが書く歌詞では、「憎悪」「自分へ自信のなさ」「将来への漠然とした不安」など、およそ人に見せないような自分のプライベートや、人に見せたくない自分の内面が開示されています。人間だれしも、カッコつけて生きていくものですが、弱さ、カッコ悪さを素直に認め、開示できる椎木さんは強いしカッコイイと素直に思います。たくさんのファンに愛されているのは、自分という人間に嘘をつかず、いつもまっすぐに生きている椎木さんの生き様があるからだと思います。マイヘアのライブでは必ず「フロムナウオン」という曲に乗せて椎木さんが弾き語りをするMCがあります。ここが私の好きなところで歌詞が「カッコ悪くたっていい、不器用だっていい」「嫌ならやらなきゃいい、好きならやればいい」「誰のために生きてんだよ、お前の人生だろ」と、とても心に響く歌詞で椎木さんはいつでも目の前のファンと真剣にぶつかってくれます。先ほど書いた「自己開示」をしながら、「お前はどうかんだよ、自分に嘘をつくなよ」と迫ってくるような迫力があります。その度にちっぽけなことでも悩んでいる小さい自分にまた気づいて、日々の悩みも大したことないな、と気づかせてくれます。音源の良さやライブの良さはそれぞれバンドによって違いますが、マイヘアは歌詞でもライブでも、いつでもまっすぐに伝えてくれます。だからこそ最高にかっこ良く応援したくなるアーティストなのだと思います。

Mさん(13期生)

『自分を見直してから』

僕は高校2年生の今に至るまで、成績が伸びずにずっと悩んでいました。どの教科の成績も下から数える方が早く、「勉強ができない子」として学校の先生からも知られていたと思います。テストで同じ間違いを繰り返さないように、反省をして次に生かすため、勉強のやり方をいろいろ聞いて回ったり、時には自分で考えたりして変えてみても成績は変わらず、ずっと先生や両親から怒られてばかりいました。「僕は僕なりに頑張っているのに、こんなに伸びないのは自分に努力が足りないだけではないのか。」と自分を責め、ときどき下校中の電車内で、独りで泣くこともありました。

僕はそう言った悩みを両親に打ち明け、母親の提案で、心療内科に受診しに行くことにしました。

そして、様々なテストを行ったあと、1ヶ月後に診断結果を聞きました。診断結果は「ASD・ADHD 混合型」でした。

結果を聞いた直後は「まさか自分が・・・」とショックを受けていましたが、しばらくしてから、自分の努力不足だけがあの成績になったわけではないのだなと考えると、とても気持ちが軽くなりました。

なので、僕はこの日から、僕なりに様々な対策をするようになりました。例えば提出が必要なものがでたら、システム手帳にメモを取ったり、家を出る前に忘れ物がないか念入りに確認したりしました。簡単なことですが、その対策のおかげで少しずつ改善できるようになってきました。

それでもやはり、まだメモを取り忘れたり、確認し忘れしたりして、忘れ物が多くなったりすることがありますが夏休みに入ってから、学校の先生や塾の先生など、いろいろな方々からのサポートのおかげで、どんどん忘れ物が減っていき、自分に自信が持てるようになりました。本当に感謝をしてもしきれません。

これからもいろいろな困難があると思いますが、先生や友達、両親がいるから頑張れるので、これからも感謝の気持ちを忘れずに精一杯学生生活をがんばっていかうと思います。

S さん(12 期生)**『あつという間に半年が過ぎました』**

今年もあつという間に半年が過ぎました。

四月には緊急事態宣言が出て、店も閉まり、友達と遊びに行く機会も少なかったです。コロナ禍前と比べると、やはり町は静かで寂しいと感じました。緊急事態宣言が出て、学校は通常通りにあり、私は頑張って登校しました。

六月には中間テストがありました。いい点数が取れず、悔しかったです。勉強しなかったことを反省し、期末テストでは頑張らなくてはと思いました。七月になるとすぐに期末テストでした。中間テストがよくなかったのも、期末テストの結果がいつ出るのだろうかどキドキしていました。結果を緊張して見ました。自分が想像していた点数よりずっとよかったです。いつもより頑張って勉強したので、いい結果になったと思います。二学期からも頑張って勉強します。だんだん勉強も難しくなるので、授業をしっかりと聞いて、復習もちゃんとしようと思います。

二学期が始まりました。二学期には修学旅行があります。東京へ行くことになっていましたが、コロナの影響で東京へは行けなくなりました。その代わりに別のところへ行くことになるようですが、まだ決まっています。中学の修学旅行は楽しくなかったのも、高校の修学旅行は楽しくなるというなと思います。女子が少ないので心配ですが、思い出に残る修学旅行にしたいです。修学旅行の後には文化祭があります。去年はコロナで中止になりました。今年こそはできたらいいなと思います。

コロナでいろいろなことが中止になったり変更になったりしていますが、楽しい高校生活になるよう頑張りたいです。

あと一年半で高校卒業です。卒業後の進路について真剣に考えるようになりました。高校卒業後は大学への進学を考えています。大学では外国語学部で英語を勉強したいと思っています。大学卒業後にグランドスタッフとして働きたいのです。私は中国語と日本語が話せます。大学で勉強して英語を話せるようになったら、多くのお客様のお手伝いができると思います。志望校に合格できるよう頑張ります。

N さん(12 期生)**『自分が好きで応援したい人について』**

私が好きで、応援したい人は沢山いるのですが、その中で一番自分が影響を受けた方を一人、紹介しようと思います。

その方はイラストレーターとして活躍する、望月けいさんという方です。私は幼い頃から絵を描く事が好きで、自分で絵を描くのは勿論の事ですが、他の人が描いた絵を見ることも好きです。とある日、絵をインターネットで見っていた時に、望月さんの描かれたイラストを拝見し、とても衝撃を受けました。当時小学5年生で、他にもたくさんのイラストレーターさんの絵を見ていましたが、その中で一番、印象を受けたイラストレーターさんでした。太い線と細い線を使いこなし、色塗りは細かく塗っている訳では無いのですが、色使いがとても綺麗で、目を惹きつけるような、とても可愛らしく、綺麗な絵柄で絵を描くイラストレーターだと思いました。望月さんの絵に出会ってから、自分の絵柄にも、望月さんの絵柄を意識するように絵を描いたりするようになったり、望月さんの絵が使用されている曲のプロモーションビデオを見たり

と、望月さんのファンになりました。また、望月さんは出身が関西で、親近感を感じました。私の好きな作品に多く関わっているイラストレーターさんで、注目を浴びる有名なイラストレーターさんとして大人気です。望月さんのどんなところが好きで、応援したいと思うのかというと、やはり絵柄がとても好きだという事と、望月さん自身の人柄も好きだということです。望月さんご本人がされている SNS をよく見るのですが、望月さん自身の発言がとても面白いと思いますし、アップロードされている絵がやはりとても綺麗で、素晴らしいと感動しています。望月さんを応援し続けて 7 年以上になるのですが、まだまだ望月さんの絵をみたり、望月さん自身を知ったりしたいと思います。自分も将来、望月さんのようなイラストレーターになりたいです。

R さん(12 期生)

『言語の芸術』

言語による表現は人々がコミュニケーションをとるための効果的な方法であり、その中でも話すことは特に重要だと思います。中でも、対話の相手が耳を傾けてくれる言葉で話すことは特に重要だと思います。

話すことは深い知識であり、特別な種類の技術です。人々が知恵と感情的知性を持って話す事ができるかどうかは、人生に大きな影響を与えます。中国には「良い言葉は冬が連続 3 回来ても暖かく感じる。悪い言葉は人々に夏でも寒さを感じさせる」という言葉があります。素敵で思いやりのある言葉は、人々を互いに近づけ、聞く人を快適に感じさせ、聞く人を幸せにし、そして、人を傷つけるような言葉は人の誠実さを完全に傷つけ、人の優しさを直接はじき、人の意志を完全に打ち砕くことができます。したがって、幸せな生活を送るために、また、快適に友達を作るために、よい言葉を使うことが私たちの生活に欠かせない習慣です。

私は、馬雲が言語の芸術をうまく使っていると思っています。アリババの創業者である馬雲は、ビジネス力が高いのみならず、講演やインタビューの取材においても素晴らしいとされています。彼が多数の国内外の会議や講演で発表した内容で、私にとっての言語の芸術を学べるのではないかと考えています。そこで、馬雲が参加した会議を、例として述べたいと思います。

近年、中国の台頭と中米紛争が、世界中の注目を集めました。それに対して、ある国際会議で、アメリカの記者は、馬雲に中国の台頭と中米紛争についてどう思われますかと質問しました。馬雲は両国の視点からみならず、西洋人と東洋人における哲学の視点から、考え方が違うという話から始めました。多数の西洋人は聖書を読んでいます、東洋人は仏教・儒教・道教思想の影響を受けていると言いました。さらに、西洋人と東洋人の思考スタイルの違いという文化の違いを説明しました。その後、馬雲は自分が西洋文化を理解するため、聖書を 5 回に読んだことがあると言い、西洋文化と東洋文化の違いが分かったと述べました。だから、簡単に今の中米関係を評価するのではなく、西洋人も東洋文化を学びながら理解し、東西の文化の違いを尊重しなければなりませんと回答しました。

このようにして、馬雲は外国から尊敬されましたし、人々は本当に称賛しました。

つまり、話すときはよく考え、他人の気持ちも考え、他人の状況をも考慮する必要があります。同時に、話すときは、他人の自尊心を考慮する必要があります。この方法でのみ、私たちは他人を目に見えない形で傷つけることなく、対話することができるのです。言語の芸術を感じましょう！